海外での指導経験を有する日本人サッカー指導者からみるコーチングについて
Coaching of Japanese soccer instructors with experience in foreign countries
福士, 徳文(Fukushi, Norifumi)
福澤基金運営委員会
2022
福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金事業報告集 (2021.)
本研究の目的は、海外での指導経験を有する日本人指導者を対象に質的研究法を実施し、日本の
育成システムおよび指導者養成の一助となるための基礎的資料を得ることであった。2021年度は3 年計画のうちの2年目の位置づけであったが、新型コロナウイルスの影響により、本研究の中核と なる「現在海外で指導を行っている指導者への調査」が、昨年度に引き続き実施することができ なかった。そのため、海外での指導経験を有する国内在住の指導者を対象とするなど、研究計画 を修正しながら、基礎的データの収集を続けた。また、近年のサッカー指導現場でのコーチング や戦術の変化など、現代サッカーに関する事項について文献考証を進めた。近年、欧州から日本 に帰還する選手が増えたことにより「日本と欧州のサッカーは別競技」なる発言が立て続けに聞 かれるようになったことは、本研究の意図する日本の育成システムや指導者養成システムの発展 の必要性を裏付ける発言であることが窺える。また、欧州でのトレーニングメソッドは急速に革 新が進んでおり、「制約主導型アプローチ」や、「コンテクスチュアルトレーニング」、「バイ オバンディング」など、新たなトレーニングメソッドやコーチング手法が確立されている。これ らの手法が生み出される背景には、運動学習理論やシステム論、さらにはネットワーク論のよう な複雑系科学の成果までを踏まえた研究と実践によって確立されていることが明らかとなった。 さらには、これら最新の理論に基づいたコーチ育成やそのインストラクター養成がすでに実施さ れていることから、今後さらに日本の指導者養成について検討していく必要性が考えられた。 今年度の成果をもとに、本研究の最終年度となる2022年度内にデータ収集を終え、国内外での学 会発表を経て、当該研究領域における基礎的研究資料としていち早く引用されるよう、論文掲載 への準備を進めていく。 The purpose of this study was to conduct a qualitative research on Japanese coaches with overseas coaching experience and to obtain basic data to help Japan's training system and coaching development. In 2021, the second year of a three-year project, this study could not be completed due to the effects of the novel coronavirus disease pandemic. The core survey with instructors who are currently teaching abroad could not be conducted as in the previous year. Therefore, we continued to collect basic data while modifying the research plan to include coaches living in Japan who have overseas coaching experience. In addition, a literature review was conducted on matters related to modern soccer, including recent changes in coaching and tactics in the field of coaching. In recent years, as the number of players returning to Japan from Europe has increased, sentiments about the differences between soccer in Japan and in Europe suggest the need for the improvement of Japan's development and leadership training systems. Additionally, training methods in Europe are rapidly innovating, and new training and coaching methods, such as the "constraint-driven approach," "contextual training," and "bio banding," have been established. Clearly, the rationale behind these metho
academic conferences in Japan and abroad. 申請種類 : 福澤基金研究補助
中崩催與,個澤塞立阿九開助 Research Paper
https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12003001-20210002- 0025

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度 福澤基金研究補助研究成果実績報告書

2021		倖 本 金 切 九 柵 切	听 玩 成 朱 美 希	俱牧 百 香			
研究代表者	所属	体育研究所	職名	専任講師	始明始	1 500	
	氏名	福士 徳文	氏名(英語)	Norifumi Fukushi	──補助額	1,500 Ŧ	千円
		 研	究課題(日本語	☆ 語)	4		
海外での指導	経験を有する日	本人サッカー指導者からみる:					
		衣	开究課題(英訳	')			
Coaching of Ja	panese soccer	instructors with experience in					
			研究組織				
氏	名 Name		所属・学科・	職名 Affiliation, department, ar	nd position		
福士徳文(Nor	ifumi Fukushi)		体育研究所•専任講師				
須田芳正(Yos	himasa Suda)	体育研究所·教授					
石手靖(Yasus	hi Ishide)	体育研究所·教授					
		1. 7	研究成果実績の	の概要			
本研究の目的	りは、海外での	指導経験を有する日本人指導	者を対象に質	的研究法を実施し、日本の育	成システムおよ	び指導者	皆養成
の一助となるた	こめの基礎的資	そ料を得ることであった。2021 年	手度は3年計画	「のうちの2年目の位置づけ ⁻	であったが、新	型コロナウ	トイル
		核となる「現在海外で指導を行					
った。そのため	、海外での指導	導経験を有する国内在住の指導	尊者を対象とす	るなど、研究計画を修正しなか	、ら、基礎的デ-	ータの収集	長を続
けた。また、近	年のサッカー揹	旨導現場でのコーチングや戦 術	际の変化など、	現代サッカーに関する事項に	ついて文献考認	IEを進め†	た。近
年、欧州からE	本に帰還する	選手が増えたことにより「日本。	と欧州のサッカ	ーは別競技」なる発言が立て約	続けに聞かれる	ようにな	ったこ
		の育成システムや指導者養成					
		速に革新が進んでおり、「制約:					
		ゲメソッドやコーチング手法が研					
		ーク論のような複雑系科学の					
		記念に基づいたコーチ育成やそ エレノ必要性が考えてれた	0122572	ター養成がすぐに美地されて	いることから、	う彼さらに	-日平
		,ていく必要性が考えられた。 ቑ究の最終年度となる 2022 年↓	度内にデータル	生たぬう 国内以での学会発	また怒て 当該	研究領情	まっち
		ち早く引用されるよう、論文掲載			祝で作て、ヨピ	如九頃均	21-05
			成果実績の概要				
T I	C (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)						
		as to conduct a qualitative re					
		pan's training system and coac d due to the effects of the no					
		d due to the effects of the fit					
		o include coaches living in Jap					
		elated to modern soccer, inclu					
		of players returning to Japar					
		ope suggest the need for the					
		in Europe are rapidly innovatir					
		ng," and "bio banding," have					
		and practice based on motor					
science, such	as network the	eory. Based on the results of	this fiscal year	, data collection will be comp	leted by the e	nd of the	2022
financial year,	the final year o	of this research project, and p	preparations wi	I be made for publication so	that the data v	vill be cit	ed as
		e relevant research area at th	ne earliest pos	sible date, after presentations	s at academic	conferenc	ces in
Japan and abro	oad.						
		3.本社	研究課題に関す				
発表 (著者・	皆氏名 講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	Ę)	発表学術誌名 著書発行所・講演学会)	学術誌 (著書発行年)	発行年月 月・講演	年月)